

# modern and contemporary century fine arts



ヘルミット・リートフェルト「レッドブルーチェア」(1918/1950s)

大阪市立近代美術館(仮称)収蔵名品展

1997.10.21tue-11.16sun

ATCミュージアム [O's棟南館地下2階]

休館日=11月4日[火]と11月10日[月] 開館時間=AM11:00~PM6:00(入場はPM5:30まで)

観覧料=一般500円(400円)/高校・大学生300円(200円)いずれも( )内は20名以上の団体料金/小・中学生 無料

ツルのマーク付健康手帳・敬老優待乗車証または身体障害者手帳等をお持ちの方は無料

主催=大阪市教育委員会 お問い合わせ=近代美術館建設準備室 06-208-9096/ATC 06-615-5006

■ミュージアムトーク(学芸員による解説) 11月4日を除く毎週[火]・[土] PM2:00より

第52回 国民体育大会スポーツ芸術主催事業

## モダン・デザインと20世紀の美術

大阪市が現在計画中の近代美術館では、日本と世界の近・現代美術の流れが概観できる常設展示を目指して作品収集に努めています。そのコレクションの柱の一つである「生活の中の芸術」分野から、日本の美術館ではあまり見ることのできない貴重な近代デザインの名作の数々を、同時代の美術作品とともに紹介します。また、近代美術館の中核的コレクションの日本近代洋画を、別コーナーでハイライト展示します。

私たちの生きてきた20世紀は芸術も社会も大きな変化を繰り返してきました。その価値観は常に変化し、対立し、さらに新しい価値観を生み出してきました。最も社会性をもった芸術分野であるデザインは、それを敏感に反映してきたといえます。ポスト産業革命ともいえる19世紀後半に

ウイリアム・モリスによって唱えられたアーツ・アンド・クラフツの思想は、アール・ヌーヴォーの造形様式とあいまって近代デザインの基礎をつくり、やがて20世紀初めにはマッキントッシュ、ヴァン・ド・ヴェルド、ペーター・ベレンスらによってヨーロッパ大陸へと移植され、ウイン工房、バウハウス、デ・スタイルなどの前衛的なデザイン運動として花開きました。これらの動きは単に家具やグラフィックのデザイナーたちにとどまるものではなく、ワイン分離派、ロシア構成主義、ダダイズムなどの芸術思潮を通じて芸術家たちに波紋を広げ、また地域的にも幅広い拡がりをもつに至りました。今回の収蔵名品展ではその影響を受けた北欧のアルヴァ・アアルトや、現代日本の代表的なデザイナー倉俣史朗の作品を含め、収蔵作品によってデザインの流れを概観します。



## 日本近代洋画|ハイライト展示

小出橋重、吉原治良、小磯良平ほか近代美術館の中核的コレクションとなる日本近代洋画を紹介します。

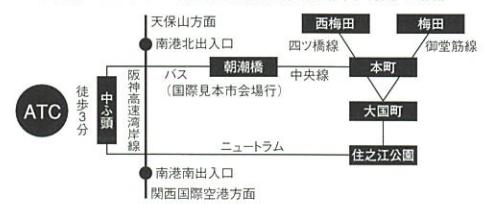


小磯良平《コスチューム》1939

### ▼南港コスモスクエア行き シャトルバス利用の場合

約30分(15分間隔)	JR大阪	南出口前 360円
約25分(20分間隔)	なんば	高島屋百貨店前 360円

### ▼地下鉄・ニュートラム・阪神高速湾岸線(自動車)利用の場合



アジア太平洋トレードセンター

大阪市住之江区南港北2-1-10 TEL.06-615-5006

APEC  
ASIA AND PACIFIC TRADE CENTER